第５学年２組　特別の教科　道徳学習指導案

令和８年１１月２０日（金）　第５校時　５年２組教室　指導者　田中　宏明

１　主題名　　家族の一員として（C家族愛、家庭生活の充実）
（教材名：家族のために　出典：生きる力５【日本文教出版】）

２　目　標

家族は家族みんなの幸せについて考え、家事を分担するなど協力して家族生活が成り立っていることを理解し、家族のために自ら進んでできることに取り組み、役立とうとする意欲を育てる。

３　授業計画

【ねらいとする道徳的価値について】

「よりよい家庭」は、家族が相互に信頼関係で結ばれ、互いの立場を理解して尊重し合い、家族みんなで楽しく充実した生活を送ろうとする家庭のことである。家族みんなの幸せを考えながら、仕事や家事を分担するなど互いに支え合うことによって家庭生活が営まれていることを理解し、自分にも家族の一員としての役割があることを理解できるようにしたい。家族への感謝と愛情を深めることで、家族の幸せのために自分にできることに前向きに取り組み、家族の支え合いに進んで関わっていこうとする心情と思いが「家族愛」につながっていくことを感じることができるようにする。

【学習前の児童の姿】

本学級の児童は、休日に出かけた時のことを楽しそうに話すなど、日々の生活の中で家族の存在を大切に感じている児童が多い。一方でそのような気持ちを感じつつも家族に対する依存性が高く、自分の世話等をしてもらうことを当たり前のように感じ、自分から進んで家の手伝いをしたり家族のために役立ったりすることのよさに気付いていない面もある。この教材を通して、家族に対して「感謝」の思いを育むとともに、家族それぞれに思いや事情があり、一人一人が協力することによって家庭生活が成り立っていることに気付くきっかけにしたい。家族それぞれの立場に立って家族の思いや願いを考え、自分にできることを行動に移して家族の役に立とうという思いをもつことができるようにしたい。

〈教材のこんな魅力〉【１時間完了】

・本教材は自分の分担だけに取り組むアキと家族のことを考えて家事に取り組む両親との違いに気付くことで、家族の在り方や自身の役割について考えを深め、家族の一員として自分にもできることがあるのではないかと考えるきっかけにすることができる教材である。
・遠足の後取り込んだ洗濯物を丁寧にたたんだり、弁当箱を自ら洗ったりするアキの姿から、自分にも家族の思いを考え、自分にできることや負担を減らすことができることに気付くことができる。家族の一員としてどのように生活するか考える活動を大切にしたい。

〈こんな手だてで〉

・見えないところで活動している家族の存在に気付く前と気付いた後のアキを比べ変容を追いかける。家族のことやその思いを考えて活動することの大切さに気付いたアキの思いを取り上げることで、アキの家族に対する愛情と感謝の思いの高まりを感じ取ることができるようにする。
・展開後段で「言われてからやる」と「自分からやる」にはどんな違いがあるか考えることで、教材から児童の実生活へつなげる。今までの自分を振り返ることで、これから家族のためにどうしていきたいか考え、思いを深めることができるようにする。

【学習後の児童に期待する姿】

・「言われたからやる」から「自分からやる」ためには、どんな気持ちが大切か考えたり、家族のことを考えたりして自分にできることに進んで取り組もうとする意欲を高めている。

４　本時の指導

（１）指導の構想

指導に当たっては、まず「家族のために取り組んでいることはありますか」というアンケート結果を提示する。ここでは、それぞれが家庭の中で役割があることに気付かせるとともに、自身の役割に「どんな気持ちで取り組んでいるか」と問いかけ、児童のそれぞれの役割に対する正直な思いを語らせ、教材への動機づけを行う。

展開では、主人公アキの自身の役割に対する後ろ向きな思いや、家族に対して不満を募らせている様子を児童に共感させる。その後、アキが自分の知らなかったところで家族が家事をしていたことに気付いたときの思いについて考えることで、アキの視野の広がりを感じ取ることができるようにする。中心発問ではアキが自ら役割を見つけ取り組んでいる姿に焦点をあて、自身の役割に対して前向きな気持ちが出てきたアキの思いをみんなで考え合う。

その際、最初のアキと今のアキを、「言われてからやること」と「自分からやること」の違いで比べ、家族に対する感謝の思いや愛情の深まりを感じて「自分も家族の一員」という思いのもとに家の手伝いを始めたアキについて考えさせたい。　その後、導入で提示しためあてに戻り、家族は家族みんなの幸せについて考え、家事を分担するなど協力して家族生活が成り立っていることを確認し合い、導入での考えと比べて自分たちの学びを確認し合う。児童の言葉でまとめを行う。

終末では、本時の学習を振り返ることで、家族のために自ら進んでできることに取り組み、役立とうとする意欲を高めていきたい。

（２）準　備　　（教師）挿絵、タブレット端末

（3）学習過程

学習活動（時間）	予想される児童の反応			※教師の支援
1　お手伝いに取り組んでいる時の気持ちを振り返る。（3）	家族のために取り組んでいることはありますか			
	・みんな結構お手伝いしているんだな。	・いやいややっている人もけっこういるんだね。	・やらなきゃいけないってことは分かっているんだけど。	※タブレット端末で集約し提示することで、アンケートの内容を捉えやすくする。
2　めあてを確認する。（1）	めあて　「家族の一員」として、どんな思いで生活すればよいかな			
	・自分が暇だったら家族を手伝おうかな。	・やってと言われたら手伝うようにする。	・言われずにできた方がいいんだろうけど、難しい。	
3　洗濯物を取り込んでいるアキの気持ちを考える。（6）	アキはどんな気持ちで洗濯物を取り入れているかな			
	・怒っている。 ・雨も降ってきたしめんどうくさいな。	・いやいややっている感じだと思う。 ・本当はやりたくないのに。	・私ばっかり大変で、お父さんやお母さんは何もしなくてよくていいな。	※アキの状況を整理することで、アキが家族に対する不満を募らせていることを意識できるようにする。
4　アキのために活動している父と母を見た時の気持ちを考える。（6）	アキはお父さんやお母さんの姿を見てどんなことに気付いたのかな			
	・朝早くから家事をしていて大変そうだな。	・私が気付いてないだけで、いろいろやってもらっていたんだ。	・私は自分のことしかやってないけれど、お父さんやお母さんは家族のことをやっていたんだ。	※家族のために気付かないところでも家事をする父母と前日のアキの様子を比較することで、家族のためにという思いがアキになかったことに気付くようにする。
5　自ら弁当箱を洗うアキの気持ちを考える。（20）	弁当箱を洗っているアキは、どんなことを考えているのかな			
	・自分で弁当箱を洗ったから、お母さん褒めてくれるかな。 ・言われてからやるよりも、自分からできた方がいいと思う。 ・自分で手伝いできた方がいいんだな。	・私のために作ってもらったから、お父さんやお母さんのために自分で洗おう。 ・言われてからだとやるぞって気持ちにならないけれど、自分からならやるぞって気持ちになる。	・私も自分にできることを考えてやって、私も家族の役に立ってみたいな。 ・自分からやるということは、家族のことを考えているからできると思うな。 ・考えてみると言われてからしか手伝いとかしてないかも。	※洗濯物を取り込んでいるアキと弁当箱を洗っているアキを対比することで、アキの心情の変化を視覚でも捉えることができるようにする。 【キーワードとなる児童の発言】 「自分からやることに意味がある」 【キーワードに対する切り返しの発問】 「『言われてからやる』ことと『自分からやる』ことは何が違うのかな」 ※アキの自分から動き出した場面の心情を取り上げることで、日常生活とつなげて思考を深めることができるようにする。
6　めあてに戻って考える。（4）	「家族の一員」として、どんな思いで生活すればよいかな			
	・何かできることがないか聴くようにしようかな。	・お父さんやお母さんを助けていくようにしたい。	・やってもらうことは多いけど、家族にできることがないか探したい。	※めあてで考えたことに戻ることで、深まりを意識することができるようにする。
7　振り返り（5）	今日の授業を通して、新しく気付いたこと、学んだことを振り返りましょう			
	・お手伝いをちゃんとやろうと思う。	・自分にできることだけじゃなくて、他にもできることを探してみよう。	・家族の役に立てるように、これからは自分にできることがないか考えて生活したい。	※「家族の一員」について、この時間に学んだことを自分の言葉でまとめる。

（4）評　価

・家族はみんなの幸せを考え、家事を分担し協力して家庭生活を維持していることなどについて考え、家族の幸せのために進んで役立とうという思いを表現しようとしているか。　（発言・道徳ノート）